

Ⅱ 第二次福山市教育振興基本計画の実施状況

1 就学前教育

基本目標 質の高い就学前教育の推進

基本施策1 教育・保育の質の向上

状況	<p>本市の教育・保育の質的向上を図るため、「福山市教育・保育カリキュラム」を作成し、2018年（平成30年）6月に市内の全ての幼稚園・保育所等に配付した。子ども主体の学びや育ちを保障し、保育の専門性を高めるための交流や研修を行いながら、カリキュラムに基づいた実践を行った。</p> <p>2012年（平成24年）から2018年（平成30年）まで7年間にわたり、福山市立大学と連携し、市内の幼稚園・保育所等の職員及び小学校の教員が参加する保幼小合同研究を継続して実施してきた。これを受け、各学区で幼保小連携※・接続を進めている。</p> <p>伊勢丘こども園は、2020年（令和2年）の開園に向け、園舎整備や教育・保育内容等の検討を行った。</p>
主な取組	<p>(1) 生活や学びの基盤をつくる教育・保育内容の充実</p> <p>(2) 認定こども園※の整備</p>

[評価]

おおむね 順調	<p>幼保小の連携の重要性が認識され、接続期カリキュラムを作成し実践する学区が9学区となった。</p> <p>伊勢丘こども園については、2020年（令和2年）の開園に向け、整備を進めた。</p>
------------	---

[基本施策に関する指標（数値目標）]

項目		2016(H28) 年度	2017(H29) 年度	2018(H30) 年度	2019(R1) 年度	目標値 2021(R3) 年度
1	幼保小連携に取り組んでいる学区数	1学区	3学区	4学区	9学区	35学区

(項目説明)

アプローチカリキュラム※やスタートカリキュラム※などに基づいて、幼保小連携に取り組んでいる小学校の学区数

2017(H29)年に、幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領が改訂され、幼児教育と小学校教育を「資質・能力」でつなぐという考え方が示されたほか、2020(R2)年に全面実施となる小学校学習指導要領においても、幼児期と児童期とを円滑に接続することがより一層求められ、スタートカリキュラムの作成が義務化された。各学校・園において、それぞれに接続期のカリキュラムを作成しているものの、接続を見通した教育課程に基づいた教育活動の実践及び評価・改善まで至っていない学区が多い。

現時点での達成状況や今後の見込みを考慮して、2021(R3)年度の目標値を、当初の5学区から35学区に変更するものとする。

主な取組	生活や学びの基盤をつくる教育・保育内容の充実					
取組内容	① 「福山市教育・保育カリキュラム」による連続性のある教育・保育内容 ② 幼稚園・保育所等の就学前施設と小学校の連携					
概要等	課題		今後の方針			
① 「福山市教育・保育カリキュラム」による連続性のある教育・保育内容						
<p>○市内の全ての幼稚園・保育所等が、「福山市教育・保育カリキュラム」に基づき、各園・所の実態を踏まえ、教育・保育を行った。</p> <p>○研修や相互訪問等を通じて市立幼稚園・保育所の交流を深め、教育・保育の在り方、保護者ニーズや子どもの現状・課題を把握した。</p> <p>○市立幼稚園・保育所で保護者向けに、園・所での子どもの様子や教育・保育内容を知らせる「たより」を発行しており、その中で子どもの生活習慣の定着に係る家庭での取組について紹介した。</p>	<p>○「福山市教育・保育カリキュラム」の意図や内容について、理解や実践を深めていく必要がある。</p> <p>○子どもの主体的な学びを育むための保育環境の工夫や職員の援助について、各園・所の職員が学びあい、連続性のある教育・保育内容の充実を図る必要がある。</p> <p>○子どもの基本的な生活習慣の定着に向けて、保護者と共通認識を持った取組をすることが必要である。</p>		<p>○引き続き、「福山市教育・保育カリキュラム」に基づいた教育・保育を行うとともに、実践の検証をしていく。</p> <p>○研修等で実践の成果を共有することで、幼稚園・保育所等の教育・保育内容の充実を図る。</p> <p>○市立幼稚園・保育所の交流等を行い、職員の専門性を高める。</p> <p>○保護者向けの「たより」を継続するとともに、各家庭の実情に応じた具体的な対応をする。</p>			
② 幼稚園・保育所等の就学前施設と小学校の連携						
<p>○小学校28校が就学前施設での保育体験や出前授業等を実施した。</p> <p>○就学前の教育・保育を小学校へつなぐために講師を招き、市立幼稚園・保育所等の職員合同で研修を行った。</p>	<p>○幼児期の教育と小学校教育の学びをつなぐために、接続期カリキュラムを作成し、実践する必要がある。</p>		<p>○就学前施設と小学校との合同研修会を行い、幼児期の教育と小学校教育との円滑な連携・接続を推進する。</p>			
実績数値						
【保幼小合同研究会の参加状況】						
区分		2015	2016	2017	2018	2019
保幼小合同研究会参加人数		126人	174人	213人	197人	—
2018年度で事業が終了した。						

主な取組	認定こども園の整備				
概要等	課題			今後の方針	
伊勢丘こども園の整備					
○2020年(令和2年)4月の開園に向け、園舎整備、備品等の購入及びこども園の運営に係る研修を行った。		○研究園としての位置付けである大学附属こども園の成果を基に、実践拠点園の教育・保育を充実させる。		○実践拠点園として、研究園の成果を生かし、地域の実態に合った教育・保育の実践をしていく。	
実績数値					
【こども園の整備状況】					
区分	2015	2016	2017	2018	2019
附属こども園	工事設計	工事設計 園舎整備 地下構造物解体工事	園舎整備 備品等購入		
伊勢丘こども園			工事設計 地下構造物撤去工事	園舎設計	園舎整備 備品購入等



幼保小連携の様子
(5歳児と5年生との交流活動)



幼稚園と小学校との合同研修